

Straight From The Bible
キリスト教・そのエッセンス

定価 100 円

1993年1月20日	初版
1994年8月1日	第二版
1999年8月1日	第三版
2002年6月1日	第三版二刷

発行者 キリスト者学生会主事会
発行所 キリスト者学生会
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1
OCCビル 3階
電話 03-3294-6916 FAX 03-3294-0605
E-mail kgkjapan@246.ne.jp
<http://www.kgjapan.net/>

●はじめに

聖書には、多くのことが書かれています。昔からたくさんの方の学者がこの書物に取り組み、いろいろな解釈を生み出してきました。しかし、書かれてあることは難しいことではありません。日本語で、文脈を考えながら、ゆっくりと読んでみましょう。今の時代に生きる私たちにも、十分納得できます。

このテキストは、みなさんが自分の感想や問題意識を生かしながら、聖書を理解していくためのものです。用意されている質問を手がかりにして、自分の考えを発表しながら聖書を読み進めて下さい。わからないことも話し合ひましょう。他の人の意見を通して、新しく発見したり教えられたりすることも少なくありません。司会者を立てて、お互いに話をよく聞くように努めましょう。

聖書の中では、イエス・キリストの存在が初めにあり、終わりにあります。この方がどのような方で、今の私たちに何を教えているのか、この学びを通して知っていただきたいと願っています。



STRAIGHT FROM THE BIBLE

キリスト教・そのエッセンス

—もくじ—

はじめに	1
第1課 キリスト教で示している神とは	3
<i>使徒の働き 14章8～18節</i>	
第2課 人間の姿	5
<i>マタイの福音書 18章21～35節</i>	
第3課 イエスとザアカイ	8
<i>ルカの福音書 19章1～10節</i>	
第4課 イエスの十字架	11
<i>ルカの福音書 23章32～43節</i>	
第5課 私は決して信じない	15
<i>ヨハネの福音書 20章24～31節</i>	

いかなる世俗の歴史におけるよりも、聖書の中には
確かな真理がある。

アイザック・ニュートン

第1課



キリスト教で示している神とは

聖書箇所：使徒の働き 14 章 8～18 節

◆はじめに

「神」という言葉に対し、あなたはどんなイメージを抱いていますか。自分の経験や今の考えを自由に出し合ってみましょう。

序.

パウロというキリスト教の宣教師は、あるとき現在のトルコの国にあたるルステラという町に行きました。この地は、私たちの国、日本と同じように、キリスト教が伝えられる前にすでに「神」と名のつく存在が、人々の間で信じられていました。さて、パウロはこの町でキリスト教を布教していた時、ひとりの男性の足を治しました。これからその時の群衆の様子を見ていきます。

I. 11～13 節のルステラの人々の言葉や行動に注目しましょう。

- ① 彼らはどうして声を張り上げたのでしょうか。(11 節)

- ② 彼らはパウロたちをどんな人だと思いましたか。(12 節)

- ③ この町の人々は、「神」をどんなものだと思っていたのでしょうか。彼らの行動から考えてみましょう。

Ⅱ. この群衆の反応に対するパウロたちの反応を次に見ましょう。

(14～18 節)

- ④ 衣を裂くとは、ユダヤ人の悲しみの表現です。パウロたちはどうしてこのようにショックを受けたのでしょうか。(14 節)
- ⑤ パウロたちは、彼らが伝えている神についてどんな紹介をしていますか。15～17 節の中から具体的にあげてみましょう。
- ⑥ ここでキリスト教で表されている神の特徴が示されています。パウロが示している神についてどんな印象を持ちますか。
- ⑦ パウロが紹介している神と、あなたのイメージで抱いている神との間に、どのような印象の違いを感じましたか。またどのような共通点がありましたか。

まとめ

これからの4回の聖書研究で、パウロがルステラの人々に伝えた「福音」の内容を、共に学んでいきましょう。



第2課



人間の姿

聖書箇所：マタイの福音書 18章 21～35節

◆はじめに

誰でも一度は悩む人間関係。大切な友人に傷つけられたと感じたり、失望や幻滅したことはありませんか。そんな時あなたはどんな気持ちになりますか。

まず聖書を読む前に、人をゆるしたこと、ゆるせなかったことについて、自分の経験を話し合ってみましょう。

I. ここに登場するペテロは、イエスにいつも付き従っていた弟子のひとりです。

- ① ペテロはどんな答えを期待して、21節のような質問をしたのでしょうか。そして22節のイエスの答えを聞いて、どう感じたと思いますか。

II. イエスは「たとえ」でペテロの質問に答えています。このたとえの意味を考えていきましょう。

- ② 主人の、しもべに対する処置は妥当なものでしたか。(25節)
それに対して、しもべはどんな気持ちで主人に願ったのでしょうか。(26節)

③ 主人がしもべにしたことと、しもべがその仲間にしたことには、どんな違いや特徴がありますか。

④ ゆるされたしもべは、なぜ自分の仲間にはこのような態度をとったのでしょうか。(28～30 節)

⑤ このたとえの中で、「王」「しもべたち」とはそれぞれ誰のことなのでしょうか。

Ⅲ. 主人に対するしもべの巨額な借金とは、人間の神に対する罪を意味しています。聖書に書いてある罪がどのようなものであるかを読んでみましょう。

聖書箇所：ローマ人への手紙 1 章 28～32 節

⑥ 人間は「神を知ろうとしがらない」(28 節)とありますが、あなたはこのことに同意できますか。

⑦ 聖書は人間が「神を知ろうとしがらない」結果、人間関係においてどのようなことが起こると言っていますか。それについてあなたはどう思いますか。

まとめ

聖書はここで見たように、人間の罪という大きな課題を提示しています。罪とは、人間が本当の神を認めないところにあります。神は人間をゆるしているのですが、人間はそれがわからないので、互いになかなか小さいこともゆるせないのです。さて、聖書はこの罪の問題を解決する道をどのように示しているのでしょうか。これから3回にわたる学びで、そのことを見ていきましょう。

第3課



ザアカイ想像図

イエスとザアカイ

聖書箇所：ルカの福音書 19 章 1～10 節

◆はじめに

あなたはどんな人に魅力を感じますか。これまでに出会ったさまざまな人を思い浮かべながら、話し合ってみましょう。

序.

この課では、聖書の主人公と言われるイエス・キリストについて見ていきましょう。イエスの地上での生涯は短い期間でしたが、多くの人々の必要に答え、励ましと生きる希望を与えたことが、福音書に記録されています。これからザアカイという人物の、イエスとの出会いを見ていきます。彼は「取税人のかしら」であったと記されています。

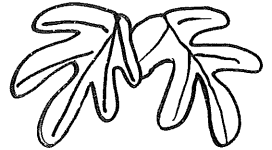
「取税人」は、ユダヤの人々から税金を取り立て、当時この地方を支配していたローマ帝国に納める仕事をしていました。しかし不正な取り立てで私腹を肥やす人も多く、人々から大変嫌われていました。ザアカイはその取税人のひとり、しかもリーダー格の存在だったのです。

I. 3～4節を見てみましょう。

- ① この時のイエスの評判が、人々の間でどのようなものであったことがわかりますか。
- ② ザアカイは、この時、イエスに対しどんな思いを持っていたのでしょうか。

II. イエスは、群衆の前で、木の上に登っているザアカイの名をいきなり呼んで話し掛けられました。(5節)

- ③ ザアカイは、どんなことを感じたのでしょうか。



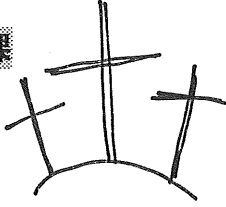
- ④ 5節の「あなたの家に泊まることにしてある」と言われた時のザアカイの心境について考えてみましょう。
- ⑤ イエスが、人々から嫌われていたザアカイの家に泊まると言った時、群衆は批判的になりました。(7節) それは、彼らがこれまでイエスをどのような人物だと思っていたからでしょうか。
- ⑥ イエスが泊まった後、ザアカイに起こった変化と、その理由について考えてみましょう。(8節)

- ⑦ 10 節の言葉に注目しましょう。イエスは、ザアカイというひとりの人間をどのように見ていたことがわかりますか。
- ⑧ イエスのザアカイに対する関わりから、イエスについてどんなことを学びましたか。
- ⑨ もし、イエスが私たちと出会ったら、どのように関わろうとするでしょうか。自由に話し合ってみましょう。

まとめ

聖書を読む時、イエスは決して過去の人物ではなく、現実の私たちにも関わって下さることがわかります。また、今回は9節に「救い」という言葉が出てきます。これはキリスト教の中心的な用語ですが、私たちにとってどのような意味を持つのか、残りの2回の学びで考えましょう。

第4課



イエスの十字架

聖書箇所：ルカの福音書 23 章 32～43 節

序.

多くの人たちは、イエス・キリストの数々の奇跡的な行動や権威ある言葉に対し、イエスを賞賛しました。しかし、イエスが登場するまでは、宗教界の指導者であったパリサイ派の人々や律法学者は、イエスをねたみ、なんとか闇に葬り去ろうとしました。その結果、イエスが自らを神としている「冒瀆（ぼうとく）罪」にあたるとして訴え、民衆をも先導して逮捕しました。そしてイエスを、この当時の社会で極刑と言われていた十字架にはりつけにし、殺してしまうことを決定しました。この課では、十字架上のイエスと、その両隣で十字架にかけられた 2 人の男について見ていきましょう。

I. 35～38 節を見ましょう。

- ① 指導者、民衆、兵士たちは、十字架につけられたイエスに対し、どんな態度を取りましたか。それぞれ具体的に挙げてみましょう。

- ② 民衆は、ここに至るまではイエスを賞賛していたのに（マタイの福音書 21 章 7～11 節）、指導者たちの先導によって、彼らの態度はいとも簡単に変わっていました。このような群衆心理を、経験したり聞いたりしたことがありますか。

II 39～42 節に登場する 2 人の犯罪人の反応に注目しましょう。

- ③ 39 節に出てくる犯罪人のひとは、どんな態度を取っていますか。

- ④ もうひとりの犯罪人の言葉に注目しましょう。（40～42 節）

a. 彼は、自分自身をどのように見えていますか。

b. 彼は自分の隣で十字架にかけられているイエスを、どのように見ていたことがわかりますか。

c. どうして彼はイエスを好意的に見たのでしょうか。34～38 節を参考にして考えてみましょう。

III. イエスの言葉に注目しましょう。

- ⑤ 「あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」

この 43 節の言葉を聞いて、あなたはイエスに対してどんな印象を持ちますか。

- ⑥ 34 節「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」この言葉は、十字架上的のイエスの祈りです。
- a. もし私たちが、この時のイエスのような仕打ちを受けたら、どのように感じ、反応するでしょうか。また、このような祈りをしたイエスとはどんな人物だと思いますか。

 - b. イエスが「彼らをお赦してください」と祈った「彼ら」とは、誰のことを思い描いて言ったのでしょうか。

まとめ

人は、せっぱつまった時に本音の言葉が出るものです。イエスは「十字架」という精神的、肉体的、靈的にせっぱつまった状態で「父よ。彼らをお赦してください」と人のために祈りをささげました。この祈りの言葉通り、イエスが十字架にかかり私たちの代わりに裁かれることで、私たちの罪は帳消しにされました。これが十字架の意味です。私たちはこの事実を知った時、どう反応しますか。犯罪人のひとりのように、すなおに自分の罪を認め、神（イエス・キリス

ト) を恐れ、助けを求める人は幸いです。

さて、イエスの死には、大きな意味があることを見ましたが、どんなに素晴らしいことをしたとしても、死んでしまったらやがてその人の影響力は薄くなります。それなのに、どうしてキリスト教はイエスの十字架刑後、2000年近くたった今もすたれずに続いているのでしょうか。その理由を次回（最終回）に学びます。



第5課



私は決して信じない

聖書箇所：ヨハネの福音書 20 章 24～31 節

序.

当然のことですが、信じるかどうかは信仰の出発点です。そして疑うことなしには、何が真実なのか、何が信じていいことなのかがわかりません。ここに、イエスの弟子でありながら、「決して信じない！」と宣言した人物がいます。彼が「信じない」と言ったのは、イエスの復活についてです。イエスの復活は、キリスト教信仰の中心とされています。そのイエスの復活について、聖書から学びましょう。

I. 20 章 19～23 節では、トマスがいなかった時に、イエスが現れたことが書いてあります。それを聞いたトマスの反応に注目しましょう。(24～25 節)

- ① 他の弟子たちが「イエスを見た」と言っているのを聞いて、トマスはどのように感じたと思いますか。

- ② 実は、イエスは十字架にかかる前に、自分が死んでから復活することを、弟子たちに再三予告していました。(マタイの福音書

16章21～28節、17章22～23節、20章17～19節)

それにもかかわらず、なぜトマスはそれを信じられなかったのだと思いますか。

- ③ トマスは自分がイエスの復活を信じる条件として、何をあげていますか。あなたならどんな条件をあげるでしょうか。

Ⅱ. イエスはどのような形で自分の復活を証明したのかを見ていきましょう。(26～29節)

- ④ イエスはどのような状況の中で姿を現しましたか。(26節)

- ⑤ イエスはここで信じるように命じていますが、その信じる根拠としてトマスに示したことは何だったでしょうか。(27節)

- ⑥ トマスの28節の言葉「私の神、私の主」から、トマスのイエスに対する考えや気持ちがどのように変化したことがわかりますか。

- ⑦ このトマスの態度から、イエスを信じるとはどういうことなのかわかりますか。

Ⅲ. 30～31 節を見てみましょう。

- ⑧ この書は何のために書かれたと書いてありますか。29 節のイエスの言葉と比較して考えてみましょう。

- ⑨ 聖書の記述を信じることに、あなたはどんな反発や障害を感じますか。それを解決するにはどうしたらいいと思いますか。

まとめ

これまで5回にわたって、神について、人間について、神と人をつなぐイエス・キリストについて、また、そのイエスの生涯のエッセンスである十字架と復活について、共に聖書から学んできました。今、イエス・キリストを、あなたの罪からの救い主、あなたの人生の主人として信じてみませんか。聖書は、イエスがまことの神であって、信じるに価する方だということを、誠実な記録によって説明しています。まだイエスを信じられないという人も、続けて聖書を学ぶことによって、それを確認してみてください。

Straight From The Bible

キリスト教・そのエッセンス

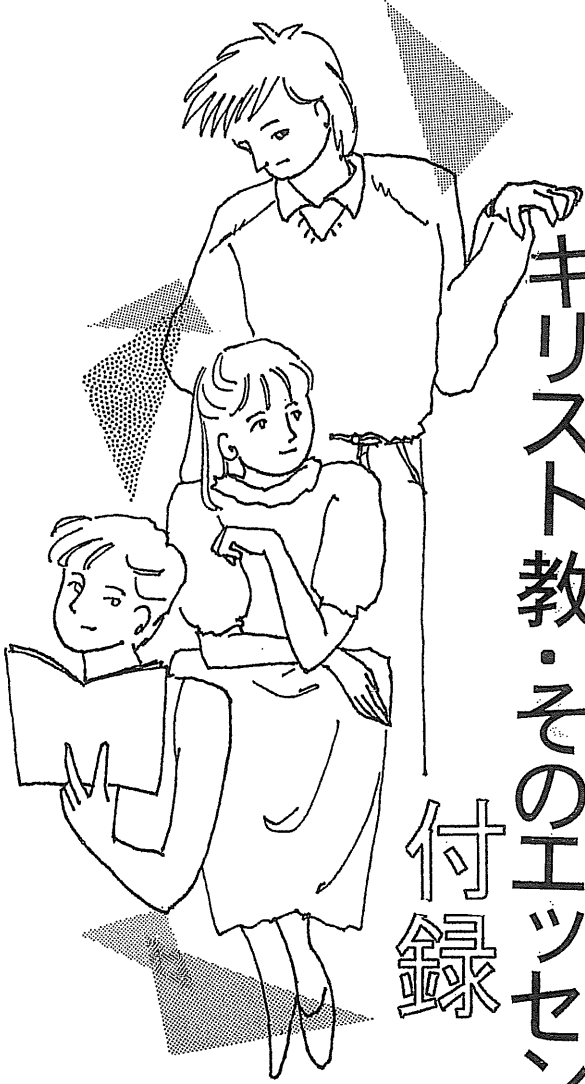
1993年1月20日 初版
1994年8月1日 第二版
1999年8月1日 第三版
2002年6月1日 第三版二刷

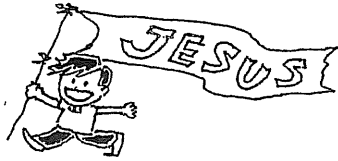
発行者 キリスト者学生会主事会
発行所 キリスト者学生会
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1
OCCビル3階
電話 03-3294-6916 FAX 03-3294-0605
E-mail kgkjapan@246.ne.jp
<http://www.kgkjapan.net/>

THE BIBLE FROM A CHRISTIAN PERSPECTIVE

キリスト教・そのエッセンス

付録





はじめに

このテキストは、未信者の方々に、聖書を通してイエス・キリストを紹介するためのものです。

KGKの各学内の聖書研究会を訪ねながら、どこでも一様に「はじめての人のための伝道聖研テキスト」の必要性を感じてきました。求道心を持って聖研にやってくる人がいても、率直に福音を語れるようなコンパクトなテキストがないので、どうしても学びがまわりくどく、難しくなってしまうからです。また、授業やバイトで忙しくなると、十分な時間を取って聖研をすることができません。短い時間でいかに学びを深めることができるかが、大きな課題です。

今回のテキスト作成については、以下のことを考慮しました。

- ・ 聖書知識やキリスト教用語がわからなくても参加できるもの
- ・ わかりやすい内容と、多すぎない質問であるもの
- ・ 数回の学びで完結するもの
- ・ 興味深く学べるもの
- ・ イエス・キリストをはっきりと伝えることができるもの

作成にあたっては、KGK主事と何度も質問を検討し、今回の発行に至りましたが、なお不十分な点は、各自が準備や実践の段階で、自由に質問を変えたり練り直したりして下さい。優先すべきことは、未信者にとって理解しやすいものであるかどうかということです。

KGK運動の中で、伝道聖研はDPM (Daily Prayer Meeting) とならんで中心的な活動とされています。聖書を共に開くことによ

って、「教える」のではなく「共に学ぶ」ことができます。聖書そのものが人の心に伝道していくのを見ることができます。まず最初の種蒔きとしてこのテキストを用いて下さい。聖書で語られている本当の意味に気づいた時、未信者の方々はいろいろな反応をするでしょう。その反応をよく聞いて、彼らが御言葉の光に照らされて自分自身を知り、唯一の神を知ることができるように、祈りつつ学びを続けましょう。

伝道聖研は伝道場ですが、伝道場は伝道聖研だけではありません。聖研の場所で訪ねてくる人を待つだけではなく、ごく身近な友人に、自分の愛しているイエス・キリストを証しして、聖研に誘うことから始めましょう。

私たちが思っている以上に、学内には求道者がたくさんいます。彼らの救いのために、この小冊子が用いられるようにと願っています。

KGK主事 安藤理恵子



それぞれの課の狙い

このテキストは、福音の内容を5回に分けて、グループ聖研形式で未信者に福音を紹介するように、という趣旨で作りました。

それぞれの課の狙いは以下の通りです。

●第1課 聖書が示している神とはどんな方か

旧約聖書の知識がなくても、あまり違和感がないようにとの願いで、パウロたちが異邦人であるルステラの人々（ユダヤ教的知識のない人々）に語った神についての説教の箇所を選びました。

●第2課 聖書が示している人間とはどんな存在か

人間関係で悩む根本問題が、人間の罪にあることに焦点を当てました。そのことを「赦し」をテーマに、マタイ18章の「借金の返済についてのたとえ話」から考えてもらうようにしました。そして「第1課で学んだ神」を無視、あるいは軽視する姿勢が根本的な罪であることに気づいてもらえたら、と願っています。

●第3課 聖書が示しているイエスとはどんな方か

「イエスとはどんな方か」を見ようとしたザアカイに、イエス自らがどのように関わって下さったかに焦点を当てました。そしてイエスが人間性と神性を兼ね備えた魅力的存在であることを、紹介できたらと思います。

●第4課 聖書が示しているイエスの十字架には、どんな意味があったのか

イエスの生涯のクライマックスである十字架上で、イエスはどんな言葉を語ったか、またそのイエスに対する人間の態度はどうであったかを知るために、「イエスの十字架の両隣につけられた2人の犯罪人」の箇所を選びました。

●第5課 聖書が示しているイエスの復活の意味は何か

キリスト教信仰の土台であるイエスの復活が、実際に起こった事実であること、またイエスを信じるとはどういうことかを整理できるように、トマスと復活のイエスの再会の箇所を選びました。



テキストの使い方

以下の点に留意しながら、このテキストを用いて下さい。

- このテキストは、未信者の友人と一緒に聖書を読みながら、福音の中心を紹介することを意図して作成しています。未信者の友人と1対1で行うことも可能ですが、その場合は一緒に学ぶというより、教える形になりやすいでしょう。したがって、3～4人の小グループで行うのが適切です。
- 未信者の友人に、これから5回分の時間をとってもらえるように、同意を求めてから、この学びを始めて下さい。
- 1回の時間は、1時間以内にとどめて下さい。また、できる限り継続的な形で、5回分の学びをして下さい。(例えば週に1回ずつ5週間かけて行う)
- 司会者は、準備段階で、テキストの質問に自分ならどう答えるかを考えておくと良いでしょう。その場合、答える上で質問が不鮮明だと思ったなら、自分たちがわかりやすいと思う言葉に置き換えて下さい。
- それぞれの課に司会者の手引きがあります。これは司会をする人にとって助けになればと思い設けたものです。質問の内容に関することと、聖研のリードの仕方に関することが主な内容ですが、

有効に用いて下さい。

●聖研をしている間に、未信者の友人が福音に対して心が開かれ始めたと感じたなら、聖研後に時間をとって個人的にその人と話す時を積極的に持って下さい。特に第5課では「信じる」ことがテーマになっていますから、できれば第5課が終了した時点で1対1の話し合いができるよう、祈り備えて下さい。

●このテキストがひととおり終わった段階で、未信者の友人に「今後も続けて聖書を読む気持ちがあるか」を聞いてみて下さい。もし好意的な反応が得られたなら、ぜひ聖研を行っているグループを紹介し、続けてグループで聖書を読む場に参加するよう励まして下さい。



「信じたい」人へのフォローアップ

テキストと一緒に学ぶ中で、もし「イエス・キリストを信じたい」という人がいたら、私たちはその人をどのように導くことができるでしょうか。「信じたい」という思いを持つのは、その人の努力や、その人と関わる私たちの人徳や熱心な誘いによるものでなく、聖霊が働いておられるからです。それゆえ、接する私たちも聖霊により頼みつつ、厳粛な思いで関わりたいものです。特にその場合、以下の3つのことを心がけましょう。

1. どうして信じたいと思ったのかを聞く

「聞く」ことは、相手の考え、思いを整理してあげる良き助けとなります。信じる決心はその人の人生にとっての一大転換です。ある人はそれまでの自分の歩みについて長々と話し出すかもしれません。その場合は時間がかかりますが、相手が心を開き大切なことを話しているのです。じっくりと聞きましょう。

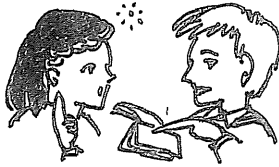
2. 何を信じるのかを聞く

信じたいと思う人の中で、感情的に高ぶって、その勢いで信じたいと思う人、またワラにもすぎる思いで、とにかく信じたいという人もいるでしょう。その時は、相手の気持ちを大切にしつつ（決して否定しないで）、信じる内容（神が天地万物を創造されたこと、人間の罪の問題、その罪の解決としてのイエスの十字架と復活）を明確に示してあげてください。

3. 御言葉による宣教と祈りに心がける

信じる決心が人間からの思いによるのではなく、神からの招きに対する応答であることを確信してもらうために、御言葉を示すことが大切です。紹介する御言葉は、自分自身が確信を持ってお勧めできる御言葉がよいでしょう。また、もし相手に何か心に残る御言葉があるようなら、その御言葉を一緒に味わい、その後にイエス・キリストに対する信仰の決心にふさわしい御言葉を、必要に応じて示すと良いでしょう。(参照「ピリポは口を開き、この聖句から始めて、イエスのことを彼に宣べ伝えた。」使徒の働き 8章 35節)

私たちは、いつもの確な御言葉を紹介できるよう、祈り備えておきたいものです。



司会者の手引き

●第1課 キリスト教で示している神とは

- (1) 「はじめに」…聖研の参加者が「神」という存在を意識するよう
に導くことを狙って下さい。
- (2) ②…ゼウス、ヘルメスは、世界史で学んだであろうギリシャ神
話の神々です。当時、ルステラの町に、古代のギリシャ文化
が浸透していたことがわかります。
- (3) ⑤…参加者に、パウロが説明している神が、創造の神、この
地球を支配する神、人格的な関わりを持つ神（立ち返る、と
いう言葉から）であることなどを知ってもらおうと良いでしょ
う。
- (4) ⑦…クリスチャンは信じる前と信じた後では、自分の神観が
どのように変わってきているか、証しする機会として用いて
下さい。

《例》・かつては、神とは、人間として立派なことをしたと評価され
た人が、死んだ後になる者だと思っていた。しかし今は、神
とはその程度の方ではなく、人間とは全く異なる、創造主な
る方だと知った。

かつては、神の存在は信じてはいたが、漠然としていた。し
かし今は、人間に語りかけ、聞いて下さる人格的な方である
ことを知った。

●第2課 人間の姿

- (1) ③…1万タラントは今の訳 5000 億円、100 デナリは約 80 万

万円に相当します。極端な金額の差に注目しましょう。

- (2) ⑥…この質問には2つの答えの可能性があるでしょう。「私は神を知ろうとしている」という人には、其れがどのような神を求めてのことなのかを、質問してみると良いでしょう。「確かに神を素人は思っていない」という人には、なぜそう考えているのかを、聞いてみましょう。

●第3課 イエスとザアカイ

- (1) ③…ザアカイはイエスとは初対面でしたが、イエスはザアカイの名をすでに知っていました。あこがれのタレントから自分の名前を個人的に呼ばれた時のことを考えてみましょう。
- (2) ⑥…ザアカイのここまでの他の人との関係（序を参考に）をヒントにしてみるとよいでしょう。
- (3) ⑦…（9節についての質問が出た時のみ参照にして下さい）
アブラハムとは、旧約聖書に登場してくる代表的な人物。ユダヤ民族の祖先の代表であり、「父」と呼ばれていた人です。ザアカイは仲間であるユダヤ人からのけものにされていました。しかし「アブラハムの子」とイエスが彼を呼んだことは、旧約聖書で約束された神の救いの計画の中に、ザアカイも含まれていることを示しています。

●第4課 イエスの十字架

- (1) ①…「酸いぶどう酒」（36節）は2つの解釈があります。
1つは、十字架にはりつけたられた人は、血や汗を流し、肉体的にも精神的にも大変な苦しみを味わい、喉もカラカラに

渴きます。そのような状態の中、酸っぱいぶどう酒（酔のよ
うなもの）を飲ませられることは、渴きをかえって増す拷問
でした。もう1つの解釈は、ぶどう酒には痛みを緩和させる
役割があります。そのぶどう酒を飲まず、最後まで苦しまれ
たイエスの姿をこの箇所で見ることができます。

(2) ⑤…「パラダイス」(42節)について

イエスを信じた人の魂が死後に移される場所。肉体の死後も、
キリストとともにいる場所で、「天国」と一般的には呼ばれて
います。

(3) ⑤…イエスは、宣言なさる方であり、死んでも生きることを
知っている方であることを確認できると良いでしょう。

(4) ⑥…司会者はこの問いでは、イエスが聖書を読んでいる私た
ちをも対象として語られたことに目を向けるよう導くと良い
でしょう。

(5) グループ聖研後、関心を持ったように見える未信者の人がい
たら、以下の御言葉を引用して、話しを深めると良いでしょう。
(イエスの十字架と自分の罪との関係について) I ペテロ
2:22~25、I ヨハネ 4:9~10、ローマ 3:23~26、ガラテヤ 1:4

●第5課 私は決して信じない

(1) ⑤…ここの答えが、③の答えと、どのように対応しているか
を考えるようにしましょう。

(2) まとめ…このことに応答する人がいたら、聖研後にマンツ
ーンで導いて下さい。

